



NPO法人びいあいぶ
副理事長

久次米 博子さん

KUJIME HIROKO

福山市出身の71歳。市内の病院に勤務後、精神障害者に特化した作業所「ほっとはうすのばら」を2002年に開設した。施設管理者も兼ねる。車を運転しながらジャズを聴くのが息抜きとか。

福山市城見町1-4-30 TEL.084-928-4647

顔

生き生きと働く
通所者に理解を

2002年に立ち上げた、精神障害者に特化した作業所「ほっとはうすのばら」が設立20周年を迎え、12月3日に記念式典を開催した。「日々大変でしたが、今振り返るとあつという間でした」

福山市内の精神科病院に勤務していた時、「なぜ社会に患者を受け入れる場がないのか」との疑問を感じたのがきっかけで、居場所を求めている人々のためにのばらを開設した。喫茶・カフェの「はちどり&ぼーこ」、リサイクルショップの「はみんぐ」といった店舗も次々にオープン。手作りの「のばら弁当」も好評だ。「自分がやりたいと思っていたことを、事業として実現しました」と久次米さんは笑う。

居場所づくりへ
作業所立ち上げ
今年で20周年

点在していた作業所が老朽化して手狭になったことから各施設を集約し、20年に現在地へ新拠点を建設した。「借家ではない、自分たちの場所が欲しかった。快く土地を売ってくれた地主さんや、受け入れてくれた地元の方に感謝したい」。町内会が総会を施設内で開くなど、地元と利用者との親交を深めている。

「福山駅から徒歩10分ほどの立地で、住宅地も近い。施設は生活の場の中にあることが大事。生き生きと働いている通所者の姿を見てもらうことが、理解につながる」と力説する。

のばらのモットーは「街の中にやさしい風を」。「私たちが自身がやさしい風になることで、地域が変わっていくのを期待している」。今後も歩みを止めないつもりだ。